

## 教育・学習支援とラーニングコモンズ 英国大学図書館の動向を中心に

野末 俊比古

1. はじめに

2. 学習スタイルと空間づくり

3. 学習プロセスとツール

4. カリキュラムとコレクション

5. 情報リテラシーと指導的サービス

6. 図書館員の役割と専門性

## 7. 教育・学習資源センターとしての大学図書館（「教授・学習」と「教育・学修」）

## 8. おわりに（青山学院大学新図書館棟の試み）

参考文献（自身が関わったものから選択的に挙げる）

- 青山学院大学図書館・青山学院女子短期大学図書館「『情報の探索と表現』コンテスト」プロジェクト「動機づけを高める情報リテラシー教育：『情報の探索と表現』コンテストの試み」第14回図書館総合展ポスターセッション，2012
- 逸村裕，竹内比呂也編『変わりゆく大学図書館』勁草書房，2005
- 仁上幸治，野末俊比古監修『情報の達人』（DVD+テキスト）全3巻，紀伊國屋書店，2007
- 日本図書館協会図書館利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践：すべての図書館で利用教育を』日本図書館協会，2010
- 三浦逸雄，斎藤泰則，宮部頼子，野末俊比古『大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能：日米実態調査の結果と分析』東京大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室，2005
- 三浦逸雄，斎藤泰則，宮部頼子，野末俊比古『大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能：アンケート調査結果』東京大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室，2002

参考資料（『青山学院大学図書館報 AGULI』No.92, 2012.4.1（特集 大学新図書館への期待），p.5）

「単位」と「図書館」の密接な関係

本学では、半期の講義科目に合格すると2単位が認定されます。1単位は45時間の学習（学修）に対して与えられるので、2単位には90時間の学習が必要です。授業時間1コマ（90分）は2時間分と計算されますが、15週（回）あっても30時間にしかなりません。残りの60時間は授業時間以外に学習することになっており、あわせて90時間とされているのです。

授業時間以外の学習は、辞書を使って語学の予習をしたり、講義の復習をして試験に備えたり、といったことに留まりません。レポートなどの課題が出されたら、書籍や論文を読み、インターネットでデータを集め、パソコンで整理・分析したり、文書を作成したりします。グループで取り組む場合は、机に資料を広げて、パソコンのモニターを囲んで、話し合いながらプレゼンの準備をすることもあつてでしょう。もちろん、教員に指示された課題をこなすだけではありません。自身の興味・関心に応じて、講義で取り上げられたトピックの背景となる理論や歴史を文献で把握したり、最近の動向や事例を新聞記事のデータベースで確認してみたりすることも期待されています。静かな空間で（あるいはカフェでくつろぎながら）一人で書籍と対話しながら思索を重ねることや、友人との会話や討論を通して考えを深めることも大切な学びです。

このように、授業時間以外の学習にはさまざまな「資源」が必要です。施設・設備・機器（パソコンなど）などはもちろんですが、授業に関連した書籍・雑誌など（電子版を含む）の資料が過不足なく揃えられていることが特に重要です。加えて、

野末俊比古  
文献の探し方、プレゼンの仕方、レポートの書き方などを教えてくれたり、相談に乗ってくれたりする「専門家」がいることも大切です。このように（人的資源を含めた）資源を集約した「学びの拠点」がキャンパスに整備されることによって、60時間を超える授業時間以外の学習を充実させることができます。

大学図書館は近年、「学びの拠点」をめざして、学習支援の機能を強化しています。本学においても、かかる機能に特化した新図書館を建築する計画が進められています。図書（だけ）の館ではないので、学習資源や学習支援のセンターと表現するほうがイメージに近いかもしれません。自主性だけに委ねた学習ではなく、教育的な意図・目標（カリキュラム）に基づいた主体性のある学修を実現するための「学習図書館」として、時代をリードする日本一の図書館となるはず。なお、学習図書館は学生だけのものではありません。教員なども、教材の準備や学生との交流などに利用します。教育支援も学習図書館の重要な機能なのです。

最後に、学習・教育支援機能（学習図書館）とともに、大学図書館のもうひとつの重要な役割である研究支援機能（研究図書館）の拡充が不可欠であることに触れておきます。学問（学術）の府である大学においては、優れた教育は優れた研究によってこそ成り立ちます。研究図書館を利用するのは教員などだけではなく、学生も、ゼミや卒論のように「自分のテーマ」を探究していくときなどに活用することになります。

（教育人間科学部准教授 図書館情報学、教育情報学）

### 講師紹介

のすえ・としひこ…青山学院大学教育人間科学部准教授。学術情報センター研究開発部助手、文部省生涯学習局社会教育官、青山学院大学文学部専任講師・助（准）教授、国立情報学研究所客員助（准）教授などを経て、現職。2010～11年、英国シェフィールド大学情報学部客員准教授（visiting lecturer）として滞在。現在、日本図書館情報学会事務局長・常任理事、日本図書館協会図書館利用教育委員会委員長、調布市図書館協議会委員長、日本教育情報学会評議員、国立国会図書館図書館情報学情報誌編集企画員なども務める。近著に、『問いをつくるスパイラル：考えることから探究学習をはじめよう』（監修、日本図書館協会，2011）、『専門資料論』（新訂版、共編著、日本図書館協会，2010）、『情報リテラシー教育の実践』（編集担当、参考文献欄参照）など。専門分野は図書館情報学・教育情報学、関心領域は情報リテラシー教育。1997年、東京大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学。1968年、静岡県生まれ。Fax: 03-3409-7678 E-mail: tnozue@ephs.aoyama.ac.jp

※ 本講演の一部は、第13回図書館総合展フォーラム「大学図書館における教育支援・学習支援の動向と事例」（2011年11月9日）、名古屋大学高等教育研究センター・附属図書館「院生・教職員のためのスキルアップセミナー」（2012年9月13日）、第20回静岡県図書館大会第7分科会（2012年10月29日）における講演の一部をもとに、加除・修正を行なったものである。